

大坂北茅一區相生町倉谷

利兵衛方へ明治二年

胃豪賊白刃を

振て押入しや

利兵衛の幼子は

小敬篤師一遂

贈る月日をふらふらと苦ゆして常お思ひ羽の氷る会長の起卧中

志ろ障も何某の函著も祈請み檢み此難病ゆ心を脱免

父六明治二年四月の頃を二期とて身まうりぬあはッの

不審儀ある父を失ひし其夜より七年より幼子が舌を

發して忿怒と言舌五音亦命のあり母の歡

侵雲花の開け一時やアイウエヲまて我

夫死折言を悲しみのまをぬ瀬川

水を行未我子の未頼母鍾あも理あり

花源堂誌

日々新聞

第九四号

小信改二代
日英信二重

勝受板
形九一

